

今日のみことば

□ 12月24日(日) 申命記 12章

カナンに移住した民が真っ先に意を用いなければならないことは、生ける神に対する一途な信仰でした。偶像礼拝を破壊すること。食物と犠牲のために動物を殺すことについて。

□ 12月25日(月) 申命記 13章

生けるまことに神に対する最大の罪は、この神を神とせず、偶像礼拝を行うことです。これは神の民の存立の基礎となるものです。

□ 12月26日(火) 申命記 14章

モーセは神の民にふさわしい健康法についての規則を再説する。神の民はそれにふさわしく、清い食物を食べなければならなかった。これは道徳的意味において重要である。

□ 12月27日(水) 申命記 15章

ここには免除の年のことと、初子を主にささげることが記されている。七年目の年は、ヘブル人の奴隷を解放し、仲間のイスラエル人の負債を免除する年である。

□ 12月28日(木) 申命記 16章

イスラエルの民が守らなければならない三つの祭りについて。逾越の祭りと、七週の祭りと、仮庵の祭りです。この祭りは民への神の恵みのわざを記念する祭りであった。

□ 12月29日(金) 申命記 17章

この章には供え物は傷のないものでなければならないこと、市民生活に関する条令、王についての規定が記されている。神は王制は許されたが、自ら王を立てることはなされない。

□ 12月30日(土) 申命記 18章

この章では祭司と預言者について記される。レビ人である祭司は、全部族のささげ物によって支えられるべきことが言われている。

ろ ぼ No. 1847
2017年 12月24日
日本バプテスト 立川キリスト教会
牧師 大川 博之

ヨハネ14:2-3

わたしの父の家には住む所がたくさんある。もしなければ、あなたがたのために場所を用意しに行くと言ったであろうか。行ってあなたがたのために場所を用意したら、戻って来て、あなたがたをわたしのもとに迎える。こうして、わたしのいる所に、あなたがたもいることになる。

クリスマスで私たちは、やっと喜びの緒に就いたにすぎないのです。ここから神さまが愛してやまれない人の、救いの大事業が始まり、キリストはその完成のために再び来ると約束をされました。私たちはこの言葉をどのように聞き、受け止めているのでしょうか。

クリスマスの喜びは、ほんとうにうれしさいっぱい喜びに満ちあふれて、世界中がその喜びの中にいるとは言えない現実を私たちは知っています。キリスト救い主は、私たちの救いのためにお出でになりましたが、そのキリストが私たちに求められたことに、私たちはどのように応えてきたかを考えなければ

クリスマスを私たちは喜びいっぱい迎えていただいています。こんなに神さまに愛されている私は、何と幸い者でしょうかと言われるかも知れませんが、ちょっと待って下さい。イエスさまはもう一度来ると言われます。神さまの私たちへの救いの喜びの出来事はまだ完成していないと言うことです。

神さまは主イエスの来臨をとおして私たちに伝えられたことがあります。天使ガブリエルは「その名をイエスと名づけなさい。かれはおのれの民をそのもろもろの罪から救う者となるからである」(マタイ1:22)と言いました。御子イエスは、私たちの罪の贖いを成し遂げられるために、十字架に付かれるためにお出でになったのです。

なりません。イエスは「わたしを愛する人は、わたしの言葉を守る。わたしの父はその人を愛され、父とわたしはその人のところに行き、一緒に住む」(ヨハ14:23)と言われました。クリスマスの喜びを、ほんとうの喜びとするために、私たちがしなければならないことがあるのです。クリスマスに起こった出来事の一つに、戦場で敵味方が一時休戦して、クリスマスの歌の応酬をした逸話がありますが、夜が明けるとそこはまた戦場と化したと言うことです。そこにはほんとうのクリスマスの喜びはありません。それではキリストが十字架に架かれた意味はないではありませんか。キリストはその生涯をおして、十字架の死に至るまで忠実に御心に生きてこられ、神さまのご愛を私たちに伝えてきて下さいました。私たちはそれをしっかりと聴いてきました。どう私たちはそれに答えてきたのでしょうか

弟子たちの同様の問いにイエスは「わたしは道であり、真理であり、命である」と言われました。そしてさらに「わたしを見た者は、父を見たのである」とも言われました。そうです。私たちはイエスの歩まれた道を通して、クリスマスの喜びの中にある私たちの歩みがしっかりと伝えられているのです。やがて「主の日」が来ます。そこで私たちは主の栄光に満ちた御国へと招き入れられるのです。そこで私たちはすべてが明らかにされ、御国へを招き入れられます。主イエスはそこまで、私たちを導いて下さいます。イエスは「場所を用意しに行く」と言われたではありませんか。ほんとうに最後の最後の喜びを一緒に喜びあいたいではありませんか。

————— 《 聖書の学び・祈祷会 》 —————
ルカ 2:22-38 救いを見た。

人間として誕生されたイエスは、人間が行うべきすべてのこと一律法の定め—を行われました。両親は神殿でイエスを祭司にささげました。彼らは貧しく、小羊をささげることはできませんでした。所定の儀式を終わってから、シメオンとアンナはその子を見て、メシヤであることを悟りました。

シメオンはイエスを抱きかかえて「わたしはこの目であなたの救いを見た」と神を賛美しました。神は誕生の前からみ使いをとおしてその救い主であることを語ってこられたが、今やシメオンとアンナによっても、赤子のイエスは救い主であるとの確証が与えられました。

アンナは84歳という高齢でしたが、幼子イエスと出会ったことを「エルサレムの救い主を待ち望んでいる人々皆に幼子のことを話し」ました。私たちは彼らのように再臨の主を待ち望ませていただきます。



Read God's Word.